



男女の文化史



2018年5月23日～開講

東北大学

オープンオンライン教育開発推進センター
<https://mooc.tohoku.ac.jp/>
secretary.mooc@grp.tohoku.ac.jp

受講無料

どなたでも受講可能

修了条件クリアで修了証発行

東北大学 MOOC



受講登録受付中

(東北大学で学ぶ高度教養シリーズ)

男と女の文化史

2018年
5月23日～開講

※7月24日閉講



大きな世界のありようの中で自分を位置づける思考のことを「世界観」と言いますが、2011年3月の「東日本大震災」はそうした「世界観」が一変するような「出来事」だったように思います。こうした「世界観」が揺らいでいる現在を乗り越えてゆくために必要なものは何でしょうか。もう一度、われわれを取り巻く「ものごと」の成り立ちや構造を、偏見を持つことなく、原点に立ち返って考えてみることが不可欠だと思います。

『男と女の文化史』という今回の講座は、人間社会を構成する「男」と「女」への検討を通じて、人間とは何か、社会とは何か、歴史とは何か、「世界観」を再構築する際の確かな「材料」の提供を意図したものです。

全四週の講義は、それぞれにスリリングで知的な視点・技術で探究し、従来にない「男と女のドラマ」の再現を目指しました。皆さんの「世界観」構築の際の参考になれば幸いです。

第1週

『源氏物語』の世界 - その男と女の文化史 -

東北大学大学院文学研究科

横溝 博 准教授



『源氏物語』はいつ、どのようにして書かれたのか、また、『源氏物語』はどのようにして読まれてきたのか、を明らかにします。『源氏物語』の男と女について、読者がどのような関心をもっていたのかを解明します。

第2週

表現される遊女から表現する遊女へ

東北大学大学院文学研究科

高橋 章則 教授



江戸時代の「遊女」という、逆境に生き、受け身な人生を送ったと思われるがちな女性が、「狂歌」という「文芸」を「日常」生活の中に取り入れ、自己を「表現する」能動的な女性であったことに焦点を当てます。

第3週

男を滅ぼす女 - ドイツ文学の女性像 -

東北大学大学院文学研究科

嶋崎 啓 教授



ヨーロッパにおいては、「悪女」がよく描かれ、ドイツ文学においても、様々な「男を滅ぼす女」が描かれました。「ローレライ」と「クリエムヒルト」という二人の女性を取り上げ、なぜ文学で「男を滅ぼす女」が描かれるのか、考えます。

第4週

古代ギリシア美術に見る男と女

東北大学大学院文学研究科

芳賀京子 教授



「民主主義の源流」として名高い古代ギリシアですが、「男・女」は平等ではなく、「女たち」はほとんどの時間を自宅のプライベートな空間で過ごし、男性とは異なった人生を送っていました。古代ギリシアの「男と女の実相」を、当時の美術とともに見てゆきます。

※職名は2018年3月現在のものです。

○開講期間中は講座動画の視聴及びディスカッションボードへの投稿が可能です。

○修了証(東北大学 MOOC オリジナルデザイン)取得希望者の課題提出期限は6月26日。

お早めの受講登録をお勧めいたします。

平成30年度講座開発中!!

東北大学 MOOC



※JMOOC 公認プラットフォーム gacco への登録(無料)が必要です。

※インターネット接続可能な端末(パソコン、スマートフォン等)が必要です。